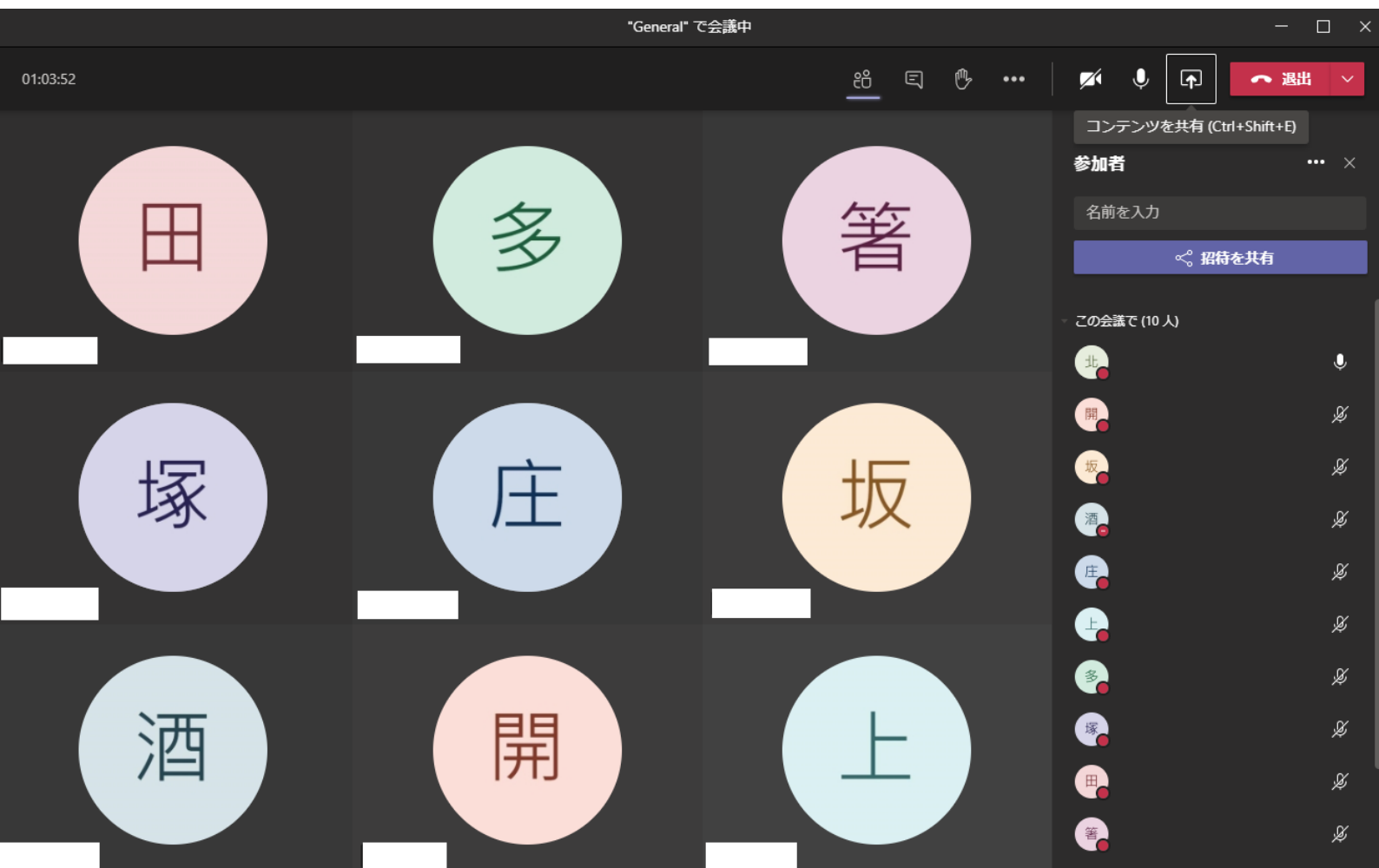


20m06H発表記録

準備



目標に準拠した評価の意義と展開

22:25 "General" で会議中 制御を要求 参加者 退出

▲ プレゼンテーション終了 誰か他の人が共有を開始しました 閉じる

自動保存 22:25 第6回予備課題「目標に準拠した評価と意義」 Word 検索

ファイル ホーム 挿入 デザイン レイアウト 参考資料 差し込み文書 校閲 表示 ヘルプ 共有 コメント

エディター 辞書 文庫校正 音声読み上げ アクセシビリティチェック 言語 翻訳 挿入 削除 前へ 次へ コメントの表示 変更履歴の記録 変更履歴 ウィンドウ 元に戻す 承諾 前へ 次へ 比較 複製のブロック 編集の制限 インクを非表示にする

教育方法論 m 第6回□□□□□□テーマ「目標に準拠した評価と意義の展開」□

(1)→「新しい時代の教育方法」から

- 「相対評価」に対して定義された「目標に準拠した評価」は子ども達の達成度を把握しすべての子ども達が「目標」に到達するような取り組みを強める評価方法である。
- 1)相対評価は集団のどの位置にいるのかを示したものにすぎない
- 2)目標に準拠した評価は評価結果をふまえて教師の教育生活の反省と子ども達への援助
- 3)目標に準拠した評価の課題：目標の「質」と子ども達sが評価行為に「参加」するという視点の弱さ
- 4)課題を改善したものが「真正の評価」

(2)→「教育評価の理論と実践—真正の評価をめざして—」

- 真正の評価：「リアルな課題」に取り組ませるプロセスの中で子どもたちを評価することである
- 1)できるだけ日常文脈に即した生態学的に適切な状況で心理学実験は行われ、そこでの法則こそが意味あるものであるという主張
- 教育評価を真正なものにするにはより日常文脈に即した方法でリアルな課題に取り組ませる必要がある
- 2)真正の評価へと高めていくことが教育評価についての最大の「目的」であり「課題」
- 3)真正の評価とは要するに「よい評価」を目指すことを目新しい言葉で言い換えているに過ぎない

(3)→その他のネット資料から長所・短所

- 教科書 p230 ④にあるパフォーマンス評価について

この会議で (10 人) 全員をミュート

参加者

名前を入力

招待を共有

北 開 坂 酒 庄 上 多 塚 田 菅

各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (目標に準拠した評価と意義の展開)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ (目標に準拠した評価について) **改善**

- ・「**相対評価**」に対して定義された
- ・「**目標に準拠した評価**」は子どもたちの達成度を把握しすべての子どもたちが「**目標**」に達するように取り組みを強める評価方法。

■肯定的 web (教科書 41 にあたる)

まとめ (パフォーマンス評価について)

- ・あらかじめ可視化されたパフォーマンス課題を基準にして行う評価方法

- ・① 評価者/被評価者の双方が明確なフィードバックが得られる

- ・② 個別的で詳細な評価を行うことが出来る

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。



どれも「教師の教育に対する考え、取り組む姿勢」が大切になっていると感じた。

評価方法は成績にダイレクトに反映されるのでもっと考えていきたい。

■ 5 段階班の自己評価 (5)

■否定的 web ()

まとめ (真正の評価について)

- ・「リアルな課題」に取り組ませるプロセスの中で
- ・子どもたちを評価する

× 真正の評価とは要するに「よい評価」を目指すことを新しい言葉で言い換えているにすぎない。

■班としての要約

まとめ ()

- ・真正の評価の「リアルな課題」とは何か。教科によって果てるため教師の工夫が必要になる。

キーワード 10~20 語 明日中に 概念系統図

- ・評価方法・相対評価・目標に準拠した評価
- ・真正の評価・リアルな課題・よい評価・プロセス
- ・パフォーマンス評価・質・量・目的
- ・課題・明確なフィードバック・実践的な能力
- ・具体的・日常生活・改善・テスト

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。

■ 評価方法を「教師の評価しやすさ」と「子どもたちの努力が反映するか」の両方を考えたものが「真正の評価」といえるのではないかと考えた

形成的評価と自己評価

47:33

制御を要求

“General” で会議中

コンテンツを共有 (Ctrl+Shift+E)

参加者

名前を入力

招待を共有

この会議で (10 人)

全員をミュート

北

開

坂

酒

庄

上

多

塚

田

管

管

酒

開

1/1 ページ 1075 文字 英語 (米国)

自動保存 (●) 保存 検索 lock この PC に保存済み

ファイル ホーム 挿入 デザイン レイアウト 参考資料 差し込み文書 校閲 表示 ヘルプ

Century (本文の) 10.5 A A A A 標準 行間詰め 見出し 1

あア重 あア重 あア重

検索 変換 選択

ディクテーション 音声 秘密度 エディター

グループボード

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

自己評価：自分で自分の人となりや学習の到達状況や学習の過程を評価する。
自己評価で得た情報を今後に活かす、自己評価能力がメタ認知とも呼ばれる。

② 「17 中学校学習指導要領解説」 「18 高等学校学習指導要領解説」等から
生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、学習の過程や成果の評価の中で、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かす。
学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返る。
学習の過程の適切な場面での評価を行う必要がある。
生徒による学習活動としての相互評価や自己評価などを工夫することも大切。
相互評価や自己評価は生徒自身の学習意欲の向上につながることから重視する必要がある。

③ ネット資料「理科教育における授業改善のための教師の自己評価」から
自己評価とは、学習者や教師が自身の概念や考え方、およびその形成過程を自覚することをさす。自己評価が行われなければならない、本来の意味での授業の改善は難しい。
学習者の自己評価に基づいて、教師は自己の授業の問題点を自己評価する。
①学習者が自己の学びを自覚することで、つまづきや考え方などの実態が把握される。
②その実態を教師が把握し、自分の授業の修正すべき箇所と修正方法を自己評価する。
教師と学習者の両方が自分の問題点を自己評価自覚することが課題解決に重要である。

④ 自分の意見
生徒の評価が授業の改善にもつながるという点は良いと思う。しかし、生徒に自己評価能力を形成させることが

パフォーマンス評価 とポートフォリオ評価

“General” で会議中

01:06:21

自動保存 教方m課6回予題「パフォーマンス評価とポートフォリオ評価」 docx - この PC に保存済み

ファイル ホーム 挿入 デザイン レイアウト 参考資料 差し込み文書 校閲 表示 ヘルプ 共有 コメント

5 1 4 3 2 1 1 1 1 2 1 3 1 4 5 1 6 7 1 8 1 9 1 10 1 11 1 12 1 13 1 14 1 15 1 16 1 17 1 18 1 19 20 1 21 22 1 23 1 24 1 25 26 1 27 28 1 29 1 30 1 31 1 32 1 33 34 1 35 1 36 1 37 1 38 1 39 1 40 41 1 42 43 1 44 1 45 1 46 1 47 1 48 49 1 50 1 51 52 1 53 1 54 1 55

もの。学び得たことを様々なメディアを使って表現させる方式。代表的な方法として「自由記述式問題」と狭義の「パフォーマンス評価」がある。

→メディアは文字、図、グラフ、絵などの表現や、実際に演出するという表現もある。

I

・ポートフォリオ評価・・・学習結果としての完成品だけでなく、日常の学習過程で生み出される様々な「作品」を蓄積することを大切にしている。

実践を開始する前、実践の過程、実践のまとめを行う際に、教師と子どもたち、また、保護者や地域住民も参加して「検討会」を行う。

→「ポートフォリオ」とは、学習過程で生み出される「作品(ワーク)」を蓄積する容器または「作品」そのものを指す。

→「検討会」とは、どのような「ポートフォリオ」を取捨選択するか、発表会でどの「ポートフォリオ」を使うかをめぐって話し合いが行われる。

・ルーブリック・・・評価尺度とその内容を記述する指標から成り立っていて、「評価指針」と訳される場合が多い。この評価指針は学習課題に対する子どもたちの認識活動の質的な転換点を基

1/2 ページ 1206 文字 日本語 画面フォーカス 150%

コンテンツを共有 (Ctrl+Shift+E)

参加者

名前を入力

招待を共有

この会議で (10 人) 全員をミュート

北 開 坂 酒 庄 上 多 塚 田 菅

各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (パフォーマンス評価とポートフォリオ評価)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ ()

- ・ パフォーマンス評価
- ・ ... 子どもたちが知識を現実の世界にどの程度うまく活用させているかを測るもの。文字や図、実際に演出する等で表現させる方式。

ポートフォリオ評価

- ・ ... 学習結果としての完成品だけでなく、日常の学習過程で生み出される様々な「作品」と蓄積することと大々力にしている。

実践を開始する前、実践の過程、実践のおめと行う際に、教師と子どもたち、また保護者や地域住民も参加して「検討会」を行う。

■肯定的 web (パフォーマンス評価のメリット/デメリット)

まとめ ()

- ・ メリット
- ・ ↳ 評価者と被評価者の双方が課題に対して明確なフィードバックが得られる

デメリット

- ↳ 点数化されない能力の評価が難しい
- ↳ 評価がぶれる可能性がある

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

ループワークの作成が難しい

- ↳ 教員市間の評価の共有ができる
- ↳ 作成に時間がかかる

ポートフォリオ評価した方がいいのでは...?

- ↳ 検討会で活用する
- ↳ 深い

■ 5 段階班の自己評価 (2)

■否定的 web (ポートフォリオ評価のメリット/デメリット) まとめ ()

- ・ メリット
- ↳ 過程・プロセスを評価するので、その人本来の能力を把握しやすい
- ↳ 学習方法や成果をこまめに確認できる

デメリット

- ↳ 教師がポートフォリオを通じてどのように評価すればいいのかわからない
- ↳ ポートフォリオの作成に手間がかかることがある

■班としての要約

まとめ ()

- ・ ポートフォリオ
- ↳ 作品を入れておくファイルのようなもの
- ↳ 課題をふりかえることができる

検討会

- ↳ 三者面談のようなもの
- ↳ 学習前後の経過を振り返り、総合的な結果の報告をする

キーワード	10~20 語	明日中に	概念系統図
・ パフォーマンス評価・文字		・ 評価	・
・ ポートフォリオ評価・図		・	・
・ 作品	・ 振り返る	・	・
・ 検討会	・ 過程	・	・
・ ループワーク	・ 点数	・	・

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。

■ 高校で今までに行ったテストやプリントをファイルにまとめることが、必須だったので、当時は、何故まとめておくのか不思議に思っていたが、きっとポートフォリオ評価をする為なんだなと分かった。

ICT活用例

01:27:34

"General" で会議中

制御を要求

コンテンツを共有 (Ctrl+Shift+E)

参加者

名前を入力

招待を共有

この会議で (10 人)

全員をミュート

北

開

坂

酒

庄

上

多

塚

田

管

管

自動保存

ファイル ホーム 挿入 描画 デザイン レイアウト 参考資料 差し込み文書 校閲 表示 ヘルプ

MS 明朝 (本文のフォント) 10.5

B I U Aa A' A" 段落 スタイル 編集 テキス ション 音声 秘密度 エディター

数学

2. → テーマ

ハイブリッド授業

3. → ICT 活用のねらい

- ・ 何らかの理由で対面授業が受けられない生徒でも授業参加が行えるように
- ・ 電子黒板やプロジェクタの活用

4. → ICT 活用例

学習内容	指導過程・学習活動	指導上の留意点
ICT 活用の場面 (板書活動)	ICT 活用の手順 ○ 授業前にカメラを設置 ・ 見やすい位置に設置する ・ 教員はヘッドセットを使用することで両手を空けて授業をすることができる ○ 電子黒板に書込みを行うことで発表 ・ 途中式などの発表も同時に行う ○ 課題・グループワークについて ・ 課題はアンケートフォームを通して行う ・ グループワークは対面生徒は対面生徒同士で、オンライン生徒はオンライン生徒同士でチーム分けする	○ 通信環境など事前に確認する ○ 黒板とプロジェクタの情報を混ぜられないか

1/1 ページ 34/460 文字 00 日本語 関

フォーカス 照 画 縮 120%

ICT活用例

01:39:21

"General" で会議中

第6回予習課題.docx - Word

ファイル ホーム 挿入 参照 デザイン レイアウト 参考資料 差し込み文書 校閲 表示 ヘルプ 共有

MS 明朝 (太字) 10.1 A Aa 色 背景色

B I U 下線 X2 X2 色 背景色

フォント 段落 スタイル

ICT 活用例

3 頁

1. 単 元

体育

2. テーマ

ICT 機器を使った体育の授業の充実

3. ICT 活用のねらい

- ・視覚での動きを把握できる利点を生かし児童の体育への興味・関心を高める
- ・特別支援学級児童への配慮の充実
- ・客観的に見ることによって技能を高める

4. ICT 活用例

学習内容	指導過程・学習活動	指導上の留意点
ICT 活用の場面 (体育の授業)	ICT 活用の手順 ○めあてを立てる ・自分なりにどうするかを考える ○めあてをもとに技に取り組む ・板に書いたとおりに実行してみる ○自分の動きを機械(パソコン・タブレット)を用いて確認する ・遅延再生機能、スローモーション再生機能、連続再生機能を使って自分の動きを客観的に把握する ○改善点を明確にする ・その改善点をもとにまた目当てを立てる	 ○ ○ ○

コンテンツを共有 (Ctrl+Shift+E)

参加者

名前を入力

招待を共有

この会議で (10 人) 全員をミュート

北 開 坂 酒 庄 上 多 塚 田 菅

+2 多 塚 坂 庄 菅 酒 田

各班ワークシート (模擬授業指導案準備)

班で討議したことを書くこと (指導案の要約ではない)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (ICT活用あり)

■学年・単元・本時の内容 (提示する教材)

- ・小学校
- ・体育
- ・ICTを使った体育の充実

■目標・内容・指導の概略等

・カメラで体育を行っている映像を撮影し、その映像を見て、どこがよかったのか、なぜ失敗したのかを確認し、それをいふことで修正するというのをくりかえす

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■ ICTを活用すれば、と発表した授業がよかったと思った。

2*) 今日の授業で、ポイントと思ったことをのべよ。

■ いまのうちにいろいろな授業を見ておくことが大事

■教材・板書計画、評価の観点・規準等

- ・パソコンやタブレットを使う
- ・遅延再生機能、スローモーション再生機能
- ・連続再生機能を使う
- ・教員含め学習者を立ち回しているかを見る

■工夫した点、出典等

・ICT機器等を活用した体育の授業の充実
(東京都文京区立林町小学校)

4*) 今日の授業のキーワードのうち、班別討議、全体発表での自分自身の発言に用いたものを3つ取り上げ、説明せよ。

- ・遅延再生機能 (10秒後に撮影したものを再生させる機能)
- ・スローモーション機能 (スローモーションで再生する機能)

・連続再生機能 (手本となる動きを、自身の前回の動きと連続して再生する機能)

確認問題05

[illegible]

